

情報通信研究機構(NICT)・東京電機大学(TDU) ・同中学校高等学校無線部のブースへようこそ

このブースでは、

- ・ 独立行政法人情報通信研究機構にゆかりのあるアマチュア無線家たちによる、記念局8J10NICTの活動紹介
- ・ 東京電機大学中学校・高等学校無線部(JA1YQZ)の活動紹介
- ・ 東京電機大学工学部・二部工学部(千住キャンパス)の活動紹介：電波測定車を使ったコンテストへの参加報告
- ・ 東京電機大学理工学部(鳩山キャンパス)の活動紹介：電大宇宙プロジェクトの発足と経過報告

を展示しています。

私たちの関係の由来

NICTは、戦前の逓信省電気試験所を前身とする公的研究機関です。電気試験所が1912年に世界に先駆けて実用無線電話「TYK式無線電話機」を開発し、安中電気(現アンリツ)が実用化して三重県内で運用されていたのを、地元出身の東大生が見学して深い感銘を受け、卒業して電気試験所に就職しました(1916年)。その青年が、後に**東京電機大学の初代学長になる丹羽保次郎**です。逓信総合博物館(現・郵政博物館)に2台だけ現存しているTYK式無線電話機の1台をNICTが修復していた2008年に、NICT本部と同じ東京都小金井市内にある東京電機大学中学校の生徒が職業見学の一環として修復作業に立会い、先人の偉業に触れました。また毎年9月に東京学芸大学で開催される「青少年のための科学の祭典」には、NICT、東京電機大学(中高大)、アンリツの無線クラブが合同で出展し、電波にまつわる公開実験を共同で行っています。



東京電機大学中学校
職業体験における
TYK式無線電話機の
修復作業見学(2008年)



青少年のための科学の祭典
東京大会in小金井での
合同出展における、TDU
中高無線部の公開運用



アンリツ、NICT、TDU(中高大)の無線クラブによる、
TYK式無線電話機発明100周年記念局
8J100TYKの合同運用(2012年)